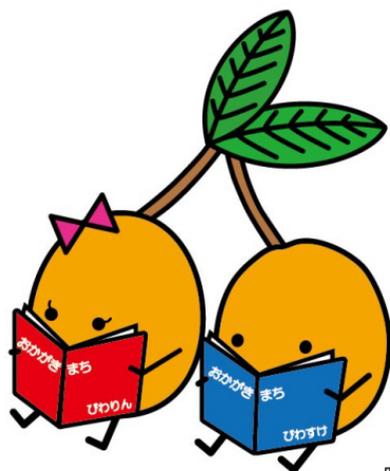


家庭での読書（家読）のすすめ

～ 家庭でのコミュニケーションを ～

中学生・高校生期編



岡垣町イメージキャラクター
♡びわりん&びわすけ★

うちどく
家読とは・・・

家庭のみなで、読書活動に取り組むことを「家読（うちどく）」と言います。家庭のみなで図書館を利用したり、好きな本について話し合ったりすることで、家庭でのコミュニケーションが増え、絆も深まります。

テレビを消して、「家読（うちどく）」に取り組んでみませんか。

岡垣町教育委員会

《子どもの発達段階に応じた読書を》

近年、子どもの読書の重要性（学力との関係や自尊心・自立心の向上等）についての認識が高まっています。

しかし、小学校・中学校・高校と学年が進むにつれて読書量が減り、高校生では1ヶ月間に1冊も本を読まない割合（平成26年度全国学校図書館協議会調査）が50%近くになっているという報告もあり、読書習慣の定着が大きな課題となっています。

子どもの頃に身につけた読書習慣は、生涯にわたり子どもの健やかな成長の一助となります。そのため、子ども達に確かな読書習慣を定着させるためにも、家庭での読書活動はとても大切です。

【中学生・高校生期】

中学生・高校生期は、自我を確立し人生観・世界観等に視点を移していくための基礎を培う時期です。

中学生期は、読書に親しむことで、ものの見方・感じ方・考え方を広げたり深めたりしていくことができるように、読書の必要性や仕方を理解させることが大切です。

また、特に高校生期では、いろいろなジャンルの本を読み、自分の人生観や世界観について深く考えることが、求められています。

この時期に多くの語彙や豊かな感性、想像力・思考力等の読書能力を伸ばすことがとても大切です。

そのためにも、子ども達の自主的な読書活動が進められるように、家庭の理解や協力をお願いします。



～ 家読（うちどく）って、どうするの？ ～

「家読（うちどく）」は、家庭での読書を通して、家庭でのコミュニケーションを図ろうという取り組みです。特に、決まったルールやスタイルはありませんが、次のような取り組みの例を参考にして、各家庭の生活に合った方法を見つけてみませんか。

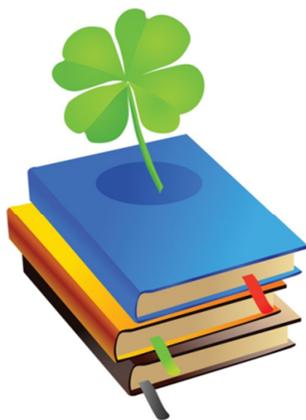
【取り組みの例】

- 毎週1回程度「家庭読書の日」を決めて、みんなで読書をする。（1回10分程度の読書習慣づくりも有効です。）
- 家庭のみんなで同じ本を読んで、感想を話し合う。
- 家庭のみんなで一緒に図書館等に行き、読みたい本を選ぶ。
- 料理の本等を一緒に読み、子どもと実際につくる。
- 家読ノートをつくり、読書記録を残す。 等

《 みんなで図書館等に出かけませんか 》

子どもと一緒に図書館や書店に出かける時間をつくり、一緒に本を選んでみませんか。子ども自身が選ぶ本から、興味や趣味等子どもの世界がうかがえますよ。本の選び方に迷う子どもには、映画やドラマになった本を紹介することも一つの方法です。また、「本に出てきた場所等について調べたり、行ったりする。」「子どもと一緒に料理をつくって食べる。」等、読書を通して知ったことを体験することで、別の感動を味わうこともできます。

最近、大人（保護者）が子どもの頃に読んだ本を子どもに紹介したり、みんなでもう一度読んだりする家庭も増えていきますよ。



～ 家読おすすめの本 ～

中学生・高校生期になると、子ども達の生活は小学生期と異なり、とても大きく変わります。また、生活環境等だけでなく、本に対する好みも多様化してきます。

個人差はありますが、読書においても大人が読むような本等にも興味を示すようになってきます。

特に、本をよく読む子どもとほとんど読まない子どもの2極化も際立ってきます。そのため、実際に図書館等に行き、いろいろなジャンルを見ながら、読みたい本を決めさせていくことも有効ですよ。



【中学生・高校生向きの本】

- きまぐれロボット
- ぼくらの七日間戦争
- 十五少年漂流記
- 星の王子様
- 僕は、そして僕たちはどう生きるか
- カラフル
- そんなに軽い命なら私にください
- バッテリー
- 未来をつくる君たちへ
- 虫はごちそう！（YA）
- 数の悪魔（YA）
- 床下の小人たち（YA）

中学生・高校生がよく読んでいる本やおすすめの本を、インターネットやサンリーアイ図書館からの情報を基に記述しています。また、中学生が高校生向き（YA：ヤングアダルト）の本を、高校生が中学生向きの本を読み、読書の世界や視野を広げることも大切です。

個人差によって、読みたい本の違いがあると思いますが、本を選ぶ時の参考になればと思っています。